

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年2月14日
【四半期会計期間】	第214期第3四半期（自平成25年10月1日至平成25年12月31日）
【会社名】	東京瓦斯株式会社
【英訳名】	TOKYO GAS CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 岡本 毅
【本店の所在の場所】	東京都港区海岸一丁目5番20号
【電話番号】	03 - 5400 - 7736（直通）
【事務連絡者氏名】	経理部連結決算グループマネージャー 富田 成己
【最寄りの連絡場所】	東京都港区海岸一丁目5番20号
【電話番号】	03 - 5400 - 7736（直通）
【事務連絡者氏名】	経理部連結決算グループマネージャー 富田 成己
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第213期 第3四半期 連結累計期間	第214期 第3四半期 連結累計期間	第213期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成25年4月1日 至平成25年12月31日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(百万円)	1,335,427	1,435,330	1,915,639
経常利益(百万円)	101,750	83,163	147,453
四半期(当期)純利益(百万円)	64,044	55,176	101,678
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	64,262	81,369	119,034
純資産額(百万円)	891,918	962,488	946,511
総資産額(百万円)	1,877,218	2,060,814	1,992,403
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	24.89	21.91	39.52
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)			
自己資本比率(%)	46.5	45.9	46.6

回次	第213期 第3四半期 連結会計期間	第214期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成24年10月1日 至平成24年12月31日	自平成25年10月1日 至平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額(円)	9.36	4.94

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。
- 2 売上高には、消費税及び地方消費税(以下「消費税等」という)は含まれていない。
以降においても、売上高の金額には消費税等は含まれていない。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社(当社、子会社70社、関連会社66社、計137社)が営む事業の内容について、重要な変更はない。

また、主要な関係会社に異動はない。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はない。

2【経営上の重要な契約等】

該当事項なし。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社及び連結子会社（以下、本書面では「当社グループ」という）が判断したものである。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、海外景気の下振れが、引き続き我が国の景気を下押しするリスクとなっているものの、企業収益及び雇用情勢が改善する等、緩やかに回復しつつある。

このような経済情勢の下で、都市ガスの販売については、気温が前年同月と比較して高く推移した影響による暖房・給湯需要の減少等により家庭用需要が減少したこと、及び発電用ガスの一部をトーリング契約（ ）へ変更したことにより工業用需要が減少したこと等から、ガス販売量は前年同期比6.4%減の10,130百万m³となった。ガス販売量の減少はあったものの、円安影響に伴う原料費調整による売上単価増等から、都市ガス売上高は前年同期に比べ46,069百万円増加し、1,014,897百万円となった。この都市ガス売上高の増加に加え、その他エネルギー売上高（LNG販売等）の増加等を受け、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期に比べ99,903百万円増加し、1,435,330百万円となった（前年同期比7.5%増）。

一方、経営効率化の一層の推進を図り、費用の抑制に最大限の努力を重ねてきたものの、円安影響等によりガス原材料費が増加したこと、及びその他エネルギーに関わる費用が増加したこと等により、営業費用は前年同期に比べ111,070百万円増加し、1,347,495百万円となった（前年同期比9.0%増）。

この結果、営業利益は前年同期に比べ11,167百万円減少し、87,834百万円となった（前年同期比11.3%減）。

一方、経常利益は為替差損益の影響等で営業外損益が悪化したことにより、前年同期に比べ18,587百万円減少し、83,163百万円となった（前年同期比18.3%減）。これに加え、特別利益として666百万円（固定資産売却益）、特別損失として2,142百万円（減損損失）を計上し、法人税等を計上した結果、四半期純利益は8,868百万円減少し、55,176百万円となった（前年同期比13.8%減）。

（ ）トーリング契約：電力販売者が発電に必要な燃料ガスを調達して発電事業者に渡し、発電事業者はそれ

で

受託発電し電力販売者に引渡して受託発電料を得る契約

セグメント別の業績は、次のとおりである。

都市ガス

家庭用需要については、前年同期に比べ5.5%減少し、2,025百万m³となった。

また、業務用需要は1.3%減少し1,994百万m³、工業用需要は10.8%減少し4,669百万m³、他ガス事業者向け供給は0.9%増加し1,442百万m³となり、ガス販売量合計では6.4%減少し10,130百万m³となった。

ガス販売量の減少はあったものの、円安影響に伴う原料費調整による売上単価増等があったため、売上高は1,014,897百万円となり、前年同期に比べ46,069百万円増加した（前年同期比4.8%増）。

一方、円安影響等で原材料費が増加したこと等により、営業費用は57,012百万円増加した（前年同期比6.5%増）。この結果、セグメント利益は82,376百万円と前年同期に比べ10,943百万円減少した（前年同期比11.7%減）。

器具及びガス工事

売上高は152,149百万円と前年同期に比べ4,893百万円増加した（前年同期比3.3%増）。営業費用は2,741百万円増加した（前年同期比1.9%増）。この結果、セグメント利益は5,525百万円と前年同期に比べ2,153百万円増加した（前年同期比63.8%増）。

その他エネルギー

売上高は252,492百万円と前年同期に比べ11,796百万円増加した（前年同期比4.9%増）。営業費用は12,290百万円増加した（前年同期比5.6%増）。この結果、セグメント利益は20,299百万円と前年同期に比べ494百万円減少した（前年同期比2.4%減）。

不動産

売上高は21,328百万円と前年同期に比べ1,333百万円減少した（前年同期比5.9%減）。営業費用は1,062百万円減少した（前年同期比5.9%減）。この結果、セグメント利益は4,530百万円と前年同期に比べ271百万円減少した（前年同期比5.6%減）。

その他

売上高は133,264百万円と前年同期に比べ2,180百万円減少した（前年同期比1.6%減）。営業費用は259百万円減少した（前年同期比0.2%減）。この結果、セグメント利益は7,556百万円と前年同期に比べ1,920百万円減少した（前年同期比20.3%減）。

なお、参考のため、セグメント別の売上高及び構成比を示す。

セグメント	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
都市ガス	968,828	64.0	1,014,897	64.4
器具及びガス工事	147,256	9.7	152,149	9.7
その他エネルギー	240,696	15.9	252,492	16.0
不動産	22,661	1.5	21,328	1.4
その他	135,444	8.9	133,264	8.5
合計	1,514,888	100.0	1,574,133	100.0
調整額	179,460		138,802	
連結	1,335,427		1,435,330	

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はない。

株式会社の支配に関する基本方針について

当社は、「エネルギーと未来のために 東京ガスグループがめざすこと。～チャレンジ2020ビジョン～」（以下、「チャレンジ2020ビジョン」という。）の策定を踏まえ、平成24年1月31日開催の取締役会において、以下のとおり「当社グループの経営理念および経営の支配に関する基本方針」の改定を決議した。

当社グループは、首都圏を中心に1000万件超のお客さまへ安全かつ安定的に都市ガスを供給するとともに、ガス、熱、電力など各種エネルギーやそれらの付加価値のベストミックスをお客さまへ提供し、「快適な暮らしづくり」と「環境に優しい都市づくり」に貢献するなど、極めて公益性の高い事業を展開しており、お客さま、株主の皆さまをはじめ、社会から常に信頼を得て発展し続けることを経営理念としている。

当社は、この経営理念および中長期の経営戦略に基づき、長期に安定した経営を行うとともに、お客さま、株主の皆さま、その他のステークホルダーの皆さまに対し安定的かつバランスの取れた利益の配分を行うことにより、着実な企業価値の向上を実現していくことを経営の基本方針としている。株主さまへの還元については、別に定める「剰余金の配当等の決定に関する方針」に基づいて実施していく。

当社は上場会社であり、当社株式の大量取得を目的とする買付けや買収提案が行われることも考えられるが、その場合に応じるか否かは、最終的には当社の株主さま全体のご意思に基づき決定されるべきものと考えている。しかしながら、株式の大量買付行為の中には、その目的・方法等からみて企業価値ひいては株主共同の利益を著しく毀損するおそれがあるものがあり、当社はこうした大量買付行為を不適切であると判断する。判断にあたっては、買付者の事業内容や将来の事業計画、並びに過去の投資行動等から、当該買付行為または買収提案による当社企業価値・株主共同の利益への影響を慎重に検討していく。

当社としては、不適切な大量買付行為に対する最大の防衛策は「企業価値の向上」であると考えている。現在のところ、当社は具体的な買収の脅威にさらされておらず、いわゆる「買収防衛策」を予め導入することはしないが、市場動向等を常に注視し、当社株式を大量に取得しようとする者が出現した場合には、直ちに当社として最も適切と考えられる措置を講じていく。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発費総額は5,388百万円である。主な研究開発活動は主力事業である都市ガス事業を中心に行われており、5,014百万円である。当第3四半期連結累計期間における研究開発活動の状況の変更の内容は、次のとおりである。

環境技術と天然ガス利用の高度化

- イ 当社は、パナソニックエコシステムズ(株)、大阪ガス(株)及び東邦ガス(株)と共同で、日本で初めて排水工事が不要な「スプラッシュ&マイクロミストサウナ機能付き浴室暖房乾燥機」を開発した。本製品では、新たに開発したマイクロミスト発生方式を採用している。新開発のマイクロミスト発生方式は、高速回転する破砕ディスクにより吸い上げた水を遠心力で破砕面に衝突させて微細化する「遠心破砕方式」を適用したもので、マイクロミスト発生時に従来方式では微細化出来なかった水も再使用して微細化している。これにより、現行品では微細化出来なかった水を排水するために必要だった排水工事が不要になり、施工性が向上した。また、現行品に対して、マイクロミスト運転時の水使用量で約90%の低減、ランニングコストで約25%の低減を達成した。
- ロ 当社は、パナソニック(株)と共同で、マンション向けの家庭用燃料電池「エネファーム」を開発した。マンションのパイプシャフト内に燃料電池ユニット、貯湯ユニット、バックアップ熱源機を全て設置できる仕様として製品化したのは、世界初となる。機器本体の気密性を高めること等により、戸建て住宅に比べて設置条件に制約があるマンションにおいても、開放廊下側のパイプシャフト内への設置が可能となった。また、機器本体をアンカー固定する脚部の強度を向上させて耐震性を高めることで、マンションの設置基準に対応するとともに、給排気構成の変更等により強風時でも運転できるように耐風性を高め、高層階への設置も可能にした。本製品は、火力発電所からの電気と都市ガス給湯器からの給湯を行う方式と比べ、定格発電時にCO2排出量を約49%、一次エネルギー消費量を約37%削減することが可能で、モデルケースでは年間光熱費を約3～4万円節約、年間CO2排出量を約1トン削減することが可能となる。
- ハ 当社は、三菱重工業(株)と共同で、発電出力1,000kWのガスコージェネレーションシステムを開発した。ガスエンジンを従来品の1,500回転/分から1,000回転/分へ低回転化することによって、部品の摩耗速度を低下させてメンテナンスの周期を延長し、メンテナンスコストの低減を実現した。また、シリンダ内をピストンが上下する行程距離(ストローク)を従来品よりも長くすること等により、エンジンを低回転化させながら発電出力を増大させることに成功した。加えて、従来品で使用されていた制御技術をさらに高度化して適用すること等により、定格出力1,000kWクラスで最高水準の発電効率42.3%(LHV)、総合効率78.5%(LHV)を達成した。

都市ガス以外の事業については、当該事業を営む連結子会社を中心となって、商品化開発等を行っている。器具及びガス工事業に係る研究開発費は335百万円、その他エネルギー事業に係る研究開発費は6百万円、その他の事業に係る研究開発費は32百万円である。

(4) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、横浜市鶴見区に所在する扇島工場が機械装置(LNGタンク、受入配管ほか)17,196百万円等を取得した。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因

事業推進上の外部リスク要因

気温変動リスク

当社グループの年度売上高の約6割が都市ガスの販売によるもので、その販売量は気温の影響を受ける。家庭用においては、主なガスの利用目的は給湯・暖房であるため、暖冬の場合にはガスの販売量が減少し減収・減益要因となる。業務用においては、主な利用目的が空調であるため、夏場においては気温が低い場合、冬場においては気温が高い場合に、それぞれガス販売量が減少し減収・減益要因となる。

当第3四半期連結累計期間の平均気温()は20.4 だったが、当連結会計年度の平均気温は通期で17.1を想定している。

()平均気温は、お客さまそれぞれの、ご使用期間(前月の検針日から当月の検針日まで)における気温を平均したものの。

原料購入価格変動リスク

当社が供給する都市ガスの主要原料であるLNGは海外から輸入しており、ドル建ての売買契約になっているため、円/ドル為替の変動リスクを受ける。また、ドル建てのLNG価格は原油価格に連動して決定されるため、国際原油価格市場の変動リスクも受ける。

ただし、原料購入価格が変動しても変動分について最大5ヶ月遅れ(注1)でガス料金に反映する「原料費調整制度(注2)」が適用されるため、年度を区切ると回収超過や回収不足が発生するが、中長期的には収支への影響は軽微である。

為替及び原油価格の変動が第4四半期連結会計期間の売上総利益に与える影響額は、以下のとおりである。

為替：1円/ドルの円安により、約1,700百万円減

原油価格：1ドル/バレルの価格上昇により、約100百万円減

当連結会計年度見通しにおける年平均為替相場と原油価格は、前連結会計年度がそれぞれ82.91円/ドル、113.88ドル/バレルであったのに対し、それぞれ100.77円/ドル、109.58ドル/バレルを想定している。

(注)1 ガス料金への反映は、契約により5ヶ月遅れではない場合もある。

2 調整の上限がある。

金利変動リスク

当社の有利子負債は、長期・短期ともに概ね固定金利であるため、借入れ期間中の金利変動リスクは軽微である。しかし、借換え時等においては金利変動のリスクを受ける可能性がある。

株価変動リスク

当社の保有する株式は、業務上必要な企業との関係を維持するためのものが大部分である。そのうちマーケットリスクにさらされる可能性があるのは、上場株式の株価である。これら株式の扱いについては、管理規則を設けている。

(6) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末から68,411百万円(3.4%)増加し、2,060,814百万円となった。これは、有価証券(譲渡性預金)残高の減少等があったものの、設備投資に伴う有形固定資産残高の増加、及び投資有価証券残高の増加があったこと等によるものである。

負債は、前連結会計年度末から52,435百万円(5.0%)増加し、1,098,326百万円となった。これは、未払法人税等残高の減少があったものの、長期借入金の新規借入れがあったこと等によるものである。

純資産は、前連結会計年度末から15,977百万円(1.7%)増加し、962,488百万円となった。これは、自己株式の市場買付(35,999百万円)、及び剰余金の配当(26,700百万円)等があったものの、四半期純利益の計上(55,176百万円)及び為替換算調整勘定の改善(14,302百万円)があったこと等によるものである。

総資産の増加率に比べ、自己資本(株主資本及びその他の包括利益累計額の合計)の増加率が小さかった結果、自己資本比率は45.9%と0.7ポイント下落した。

(7) 財務方針について

当社は、チャレンジ2020ビジョンの策定を踏まえ、平成24年1月31日開催の取締役会において、以下のとおり当社グループの「財務方針」を決議した。

チャレンジ2020ビジョンに基づき、持続的成長に向け積極的な原資投入を行うとともに、投資・資本効率性、財務体質、株主配分にも留意し、長期的な企業価値向上に資するバランスのとれた財務戦略を実現していく。

投資・資本効率性

投資に伴うリスクおよび採算性に留意し個別の投資判断を行うとともに、投資効率の維持・向上および株主資本の有効活用に努める。

具体的にはROA(総資産利益率)・ROE(自己資本利益率)を主要経営指標と位置付け、2020年度における目標を、ROAは4%程度、ROEは8%程度と定め上記の実現を図る。

財務体質

現在の資金調達力を維持し財務健全性を確保するとともに、資本コストを意識した最適な資本構成の実現に努める。

具体的には、D/Eレシオ(負債資本倍率)を主要経営指標と位置付け、2020年度に至るまで各年度0.8倍程度を目標と定め上記の実現を図る。

株主配分

創出されるキャッシュ・フローを、新たな成長に向けた「LNGバリューチェーンの高度化」に資する投資に振り向けるとともに、株主の皆さまに経営の成果を適切・タイムリーに配分する。

具体的には、配当に加え、消却を前提とした自社株取得を株主還元策の一つとして位置付け、総分配性向（連結当期純利益に対する配当と自社株取得の割合）の目標を、2020年度に至るまで各年度6割程度とする。

また、配当については、安定配当を維持しつつ、中長期の利益水準を総合的に勘案し、成長に合わせて緩やかな増配を実現していく。

$$n\text{年度総分配性向} = ((n\text{年度の年間配当金総額}) + (n + 1\text{年度の自社株取得額})) \div n\text{年度連結当期純利益}$$

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	6,500,000,000
計	6,500,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年2月14日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	2,517,551,295	2,517,551,295	東京証券取引所(市場第一部) 名古屋証券取引所(市場第一部)	単元株式数 1,000株
計	2,517,551,295	2,517,551,295		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項なし。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日		2,517,551		141,844		2,065

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はない。

(7)【議決権の状況】
【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 6,288,000 (相互保有株式) 普通株式 62,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,498,802,000	2,498,802	
単元未満株式	普通株式 12,399,295		
発行済株式総数	2,517,551,295		
総株主の議決権		2,498,802	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が8,000株(議決権8個)含まれている。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式761株及び相互保有株式630株の合計1,391株が含まれている。

【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 東京瓦斯株式会社	東京都港区海岸1-5-20	6,288,000	-	6,288,000	0.25
(相互保有株式) 坂戸ガス株式会社	埼玉県坂戸市末広町3-5	20,000	-	20,000	0.00
東京ガスエコモ株式会社	神奈川県横浜市港南区丸山台2-12-1	21,000	-	21,000	0.00
東京ガスライフバル渋谷株式会社	東京都渋谷区幡ヶ谷2-1-13	14,000	-	14,000	0.00
東京ガス葛飾エナジー株式会社	東京都葛飾区青戸4-2-8	5,000	-	5,000	0.00
東京ガスファーストエナジー株式会社	埼玉県さいたま市西区土屋584-2	1,000	-	1,000	0.00
東京ガスクリエイティブ株式会社	東京都三鷹市新川6-11-7	1,000	-	1,000	0.00
計		6,350,000	-	6,350,000	0.25

2【役員の状況】

該当事項なし。

第4【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）及び「ガス事業会計規則」（昭和29年通商産業省令第15号）に基づいて作成している。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けている。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
固定資産		
有形固定資産		
製造設備	167,882	183,177
供給設備	466,227	474,450
業務設備	64,125	60,361
その他の設備	321,751	319,353
休止設備	316	316
建設仮勘定	119,699	172,609
有形固定資産合計	1,140,003	1,210,269
無形固定資産		
のれん	827	705
その他無形固定資産	64,055	74,470
無形固定資産合計	64,882	75,175
投資その他の資産		
投資有価証券	154,476	181,989
長期貸付金	21,934	20,137
繰延税金資産	31,531	28,076
その他投資	40,155	40,206
貸倒引当金	618	567
投資その他の資産合計	247,479	269,843
固定資産合計	1,452,365	1,555,288
流動資産		
現金及び預金	80,669	73,369
受取手形及び売掛金	222,649	235,337
リース債権及びリース投資資産	27,486	26,256
有価証券	64,009	-
商品及び製品	4,374	3,959
仕掛品	10,718	23,138
原材料及び貯蔵品	67,179	78,556
繰延税金資産	12,412	13,847
その他流動資産	51,183	51,681
貸倒引当金	644	621
流動資産合計	540,038	505,525
資産合計	1,992,403	2,060,814

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
固定負債		
社債	321,494	336,495
長期借入金	256,899	304,207
繰延税金負債	12,601	12,762
退職給付引当金	86,100	82,788
ガスホルダー修繕引当金	3,365	3,184
保安対策引当金	2,384	2,141
資産除去債務	6,009	7,019
その他固定負債	24,015	21,828
固定負債合計	712,871	770,427
流動負債		
1年以内に期限到来の固定負債	46,752	47,235
支払手形及び買掛金	92,154	88,077
短期借入金	15,036	18,666
未払法人税等	44,433	18,578
繰延税金負債	4	6
その他流動負債	134,638	155,334
流動負債合計	333,019	327,898
負債合計	1,045,891	1,098,326
純資産の部		
株主資本		
資本金	141,844	141,844
資本剰余金	2,065	2,065
利益剰余金	780,196	773,855
自己株式	2,348	3,620
株主資本合計	921,757	914,144
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	21,218	31,124
繰延ヘッジ損益	1,670	719
為替換算調整勘定	13,671	631
その他の包括利益累計額合計	5,877	31,036
少数株主持分	18,877	17,306
純資産合計	946,511	962,488
負債純資産合計	1,992,403	2,060,814

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	¹ 1,335,427	¹ 1,435,330
売上原価	904,515	1,016,945
売上総利益	430,911	418,384
供給販売費及び一般管理費		
供給販売費	281,947	280,567
一般管理費	49,962	49,982
供給販売費及び一般管理費合計	331,910	330,549
営業利益	99,001	87,834
営業外収益		
受取利息	1,071	941
受取配当金	2,289	2,206
持分法による投資利益	1,933	3,671
雑収入	8,975	5,186
営業外収益合計	14,269	12,006
営業外費用		
支払利息	8,304	9,069
為替差損	107	4,677
雑支出	3,109	2,930
営業外費用合計	11,521	16,677
経常利益	101,750	83,163
特別利益		
固定資産売却益	-	666
投資有価証券売却益	986	-
関係会社株式売却益	2,996	-
特別利益合計	3,982	666
特別損失		
減損損失	607	2,142
投資有価証券評価損	3,370	-
特別損失合計	3,977	2,142
税金等調整前四半期純利益	101,755	81,688
法人税等	35,991	25,564
少数株主損益調整前四半期純利益	65,763	56,123
少数株主利益	1,718	946
四半期純利益	64,044	55,176

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	65,763	56,123
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,521	9,956
繰延ヘッジ損益	282	333
為替換算調整勘定	3,135	11,124
持分法適用会社に対する持分相当額	394	3,832
その他の包括利益合計	1,501	25,246
四半期包括利益	64,262	81,369
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	62,574	80,336
少数株主に係る四半期包括利益	1,688	1,033

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
税金費用の計算	税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率等を乗じて計算している。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

(1) 連結会社以外の会社の金融機関からの借入等に対する債務保証

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
MT Falcon Holdings Company, S.A.P.I. de C.V.	10,640百万円	11,953百万円
TOKYO TIMOR SEA RESOURCES INC.	1,092	734
六本木エネルギーサービス㈱	536	480
川崎天然ガス発電㈱	576	449
ICHTHYS LNG PTY LTD	6,209	17,960
Cordova Gas Resources Ltd.	1,905	2,025
計	20,960	33,603

(2) 社債の債務履行引受契約に係る偶発債務

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
第14回無担保普通社債	29,500百万円	29,500百万円
第15回無担保普通社債	9,200	9,200
計	38,700	38,700

(四半期連結損益計算書関係)

1 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間

(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

ガス事業が、売上高の大半を占めているため、事業の性質上気温等の影響により、著しい季節的変動がある。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していない。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む)は、次のとおりである。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
減価償却費	99,225百万円	100,121百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

1 配当金支払額

平成24年6月28日開催の定時株主総会において、次のとおり決議している。

普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	11,631百万円
1株当たり配当額	4.50円
基準日	平成24年3月31日
効力発生日	平成24年6月29日
配当の原資	利益剰余金

平成24年10月30日開催の取締役会において、次のとおり決議している。

普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	11,573百万円
1株当たり配当額	4.50円
基準日	平成24年9月30日
効力発生日	平成24年11月29日
配当の原資	利益剰余金

2 株主資本の金額の著しい変動

(1) 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づく自己株式の取得のための市場買付を以下のとおり実施した。

なお、平成24年5月15日までの買付をもって、平成24年4月27日開催の取締役会において決議した自己株式の取得について、取得を終了した。

買付期間	平成24年5月2日～平成24年5月15日(約定ベース)
買付株式数	12,796千株
買付総額	4,999百万円
買付方法	東京証券取引所における指定金外信託による市場買付

(2) 自己株式の消却

当社は、平成24年5月21日に開催した取締役会において、会社法第178条の規定に基づき自己株式を消却することを決議し、以下のとおり実施した。

消却する株式の種類	当社普通株式
消却する株式の数	12,796千株
消却実施日	平成24年6月6日

当第3四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年12月31日）

1 配当金支払額

平成25年6月27日開催の定時株主総会において、次のとおり決議している。

普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	14,144百万円
1株当たり配当額	5.50円
基準日	平成25年3月31日
効力発生日	平成25年6月28日
配当の原資	利益剰余金

平成25年10月30日開催の取締役会において、次のとおり決議している。

普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	12,556百万円
1株当たり配当額	5.00円
基準日	平成25年9月30日
効力発生日	平成25年11月29日
配当の原資	利益剰余金

2 株主資本の金額の著しい変動

(1) 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づく自己株式の取得のための市場買付を以下のとおり実施した。

なお、平成25年5月24日までの買付をもって、平成25年4月26日開催の取締役会において決議した自己株式の取得について、取得を終了した。

買付期間	平成25年4月30日～平成25年5月24日（約定ベース）
買付株式数	60,368千株
買付総額	35,999百万円
買付方法	東京証券取引所の自己株式立会外取引（ToSTNeT-3）による買付及び 東京証券取引所における指定金外信託による市場買付

(2) 自己株式の消却

当社は、平成25年6月27日に開催した取締役会において、会社法第178条の規定に基づき自己株式を消却することを決議し、以下のとおり実施した。

消却する株式の種類	当社普通株式
消却する株式の数	60,368千株
消却実施日	平成25年7月12日

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	都市ガス	器具及び ガス工事	その他 エネルギー	不動産	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	896,917	137,314	219,551	8,003	1,261,786	73,640	1,335,427	-	1,335,427
セグメント間 の 内部売上高又は 振替高	71,911	9,942	21,145	14,657	117,656	61,804	179,460	179,460	-
計	968,828	147,256	240,696	22,661	1,379,443	135,444	1,514,888	179,460	1,335,427
セグメント利益	93,319	3,372	20,793	4,801	122,287	9,476	131,764	32,762	99,001

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建設事業、情報処理サービス事業、船舶事業、クレジット・リース事業等を含んでいる。

2 セグメント利益の調整額 32,762百万円には、セグメント間取引消去1,462百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 34,225百万円が含まれている。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	都市ガス	器具及び ガス工事	その他 エネルギー	不動産	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	972,968	142,434	248,248	8,239	1,371,890	63,439	1,435,330	-	1,435,330
セグメント間 の 内部売上高又は 振替高	41,929	9,714	4,244	13,089	68,977	69,824	138,802	138,802	-
計	1,014,897	152,149	252,492	21,328	1,440,868	133,264	1,574,133	138,802	1,435,330
セグメント利益	82,376	5,525	20,299	4,530	112,731	7,556	120,287	32,452	87,834

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建設事業、情報処理サービス事業、船舶事業、クレジット・リース事業、海外事業等を含んでいる。

2 セグメント利益の調整額 32,452百万円には、セグメント間取引消去1,004百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 33,456百万円が含まれている。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	24円89銭	21円91銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	64,044	55,176
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	64,044	55,176
普通株式の期中平均株式数(千株)	2,573,296	2,518,055

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

(重要な後発事象)

該当事項なし。

2【その他】

(1) 第214期中間配当に関する取締役会決議について

平成25年10月30日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議している。

中間配当による配当金の総額	12,556百万円
1株当たりの金額	5.00円
支払請求の効力発生日及び支払開始日	平成25年11月29日

(2) ガス料金の改定について

当社は、平成25年10月30日、経済産業大臣に対し、ガス事業法第17条第4項及び第12項の規定により、ガス料金改定を主な内容とする一般ガス供給約款等(東京地区等)の変更の届出を行い、平成25年12月10日からガス料金の引下げを実施した。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月14日

東京瓦斯株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田中 輝彦 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 池谷 修一 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 三浦 勝 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東京瓦斯株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東京瓦斯株式会社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管している。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLD-タ自体は含まれていない。